



発行者

滋賀県PTA連絡協議会
滋賀県PTA安全会
会長 松浦 洋子
制作 広報 委員
印刷 竹田 騰 子会堂



みずいろ

滋賀県PTA連絡協議会広報紙



歯科医師 小島先生

「のどが乾いたら、ジュースやスポーツ飲料よりお茶を飲みましょう！」がこの活動の意義であり、地域と連携して、大人も子どもも意欲的に取り組みに参加している。

むし歯をなくそう運動として、地域とPTAと行政が一体となって取り組んでいる「竜王チャチャチャ運動」の取材に行きました。保護者のかかり方に非常に興味をもち、実際に取り組みをされている竜王町の歯科医師 小島先生と竜王中学校の養護教諭 若井先生と保護者の方からお話を伺いました。



竜王町PTA・地域連携

**保護者、学校、地域が組織となり
プロジェクトを進める子育て**

前年度は、地域と連携し絆を結ぶことにより、子どもたちの健やかな成長を願う取り組みの実践を紹介してきました。

今回は、一歩進め保護者・学校・地域が、組織の形をとり、ひとつの目標に向かってそれぞれの立場からアプローチし、成果を出した実践例を紹介します。

いつ、どのようにして始めたのか？（きつかけ）

平成十二年から始まり、現在も継続しています。きっかけは、当時竜王町の小学生は滋賀でもワースト2のむし歯数だったため、なんとか予防が出来ないか！として始めた取り組みです。

まずは、学校や園にお話をし、家庭調査を行い原因を探し出した。乳児期にはすでにむし歯が多かったため、十か月健診から保護者に歯科指導を行い、歯が生える前から歯の大切さを教える続けられた。結果、ここから保護者とのつながりが持てたため、歯が生えそろった頃には意欲的に活動に取り組んで頂けた。

学校とも連携を取り、子どもたち自身へも歯の大切さを教えた。現在、子どもたちの歯の知識は、大人以上である。

取り組みを始めるにあたって困ったこと

家庭調査をして、おじいちゃんやおばあちゃんと同居されている子どもはむし歯数が圧倒的に多かった。啓発を行うのも、おじいちゃんおばあちゃんの理解を得ることが一番難しかった。

根気よく説得をして、今では高齢者の方々の歯に対する意識も変わり、健康増進のお役にたっている。

学校、保護者・地域（行政）との連携はどのように行なったのか？

まずは、学校・行政と協力して現状を伝えた。できるだけ多くの住民の皆さんに危機感を持ってもらった。

シンポジウムや講演、検診などを通して、たくさんの方の知識を持ってもらった。（今では、保護者も学校も歯の知識が豊富である。）

歯磨きソングを保護者が作詞するなど、意欲的に活動に参加している。

歯科検診後の事後指導も一年に2回と回数を増やして、短期間での変化に対応した。

実際活動してみても、よかったことや困ったこと

【保護者】歯についての知識を理解できる頃では遅いので、早い段階で教えていたことに感謝している。竜王町の子どもたちは幸せだなと感じている。

【学校】検診のたびに、子どもたちの歯の状況を見て、家庭環境の変化など誰よりも早くわかるの



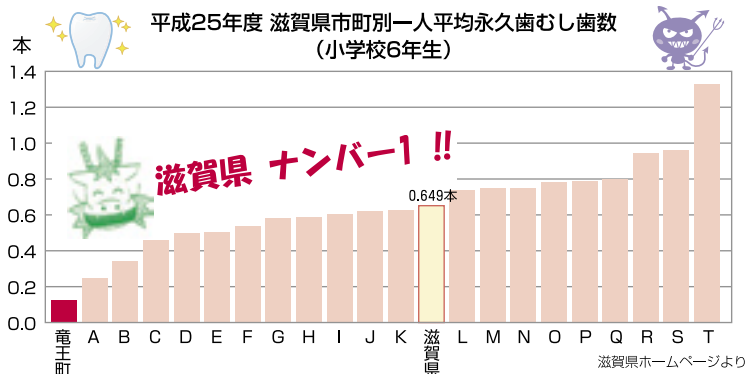
取材を終えて

子どもたちの未来のため、今もなお継続してP保護者T学校C地域がA組織的に協力している素晴らしい活動を伺うことが出来ました。ジュースやスポーツ飲料が全くダメと言わなければならない、時には

で、注意して子どもを見ることで助かっている。【地域】検診など忘れてしまうので電話で連絡をいれたり、検診が途切れないようにしている。

【小島先生】今では滋賀県が一番むし歯数0ではない。まだまだ個別的に指導をしなければならぬ家庭やハイリスク児は存在している。これからは、歯周病にも目を向けていきたい。

平成25年度 滋賀県市町別一人平均永久歯むし歯数（小学校6年生）



が、褒美として与えてはいるが、十分な知識を持った上で飲んでいるので、その後の対応がきちんと出来ているようです。

最後に、「大切に育てられた子どもたちが大人になり、今度は歯の大切さを教える立場にたつて地域活動に参加してくれることを心から願います！」という小島先生のお話が印象に残りました。

地域の子育ては未来の人材育成にも一役かっていることや、学校・保護者・地域が協力しあうことで良い活動の流れが出来ることを学びました。

『異国情緒豊かな長崎で』

集い 語らい 学び合いを』

「親子の触れ合いを大切に！」困難にくじけない強さや人を思いやるやさしさ、粘り強く努力する子どもたちの育成をPTAの使命として、長崎で全国大会が開催されました。それぞれの分科会で熱心な討議が展開されました。そのうちの4分科会を紹介します。

第1分科会
組織運営活発な組織作りについて
学び合おう

長崎県中央部に位置する諫早市中央体育館で開催されました。会場に入っただけで、ステージが真ん中にあることに驚きました。参加者の皆さんが少しでも等しくステージが見えるようにしたそうです。創意工夫とは、このようなことかと感心しました。

分科会では、コーディネーターの池田尚氏がギター演奏も交えながら進めていかれました。参加者の十二名をステージにょんで「PTAとは何か」「活動の活性化のヒント」「組織づくりへの助言」等について意見交換をし、全員参加型のワークショップが行われました。

PTAという組織は「ただ単に、単位PTAで行われている活動だけではない」という、私が普段から思っている話も多くありました。

家庭はもちろんのこと、地域や学校そして行政もからめて「子どもたちの明日の瞳が

輝ける社会づくりをしていくことではないかもしれません」という諫早市立小栗小学校PTAの発表がありました。この学校の育友会役員は、なり手が少ない中、工夫をされていきました。会長は当然ながら一名ですが、数名おられる副会長が担当する専門部があり、なおかつ会長補佐までおられます。一度役員になると、数年間担当して頑張っているとのことでした。

「役員が多くて困ること」「意見がまとまりにくい・情報の共有が難しい等」また反対に「役員が増えて良かったこと」「個人の負担が軽減された・知り合いが増えた・役員を父親がすることが多く活動への参加が増えた」等々の意見も出ました。

自分の子どもが通っている学校の役員ができることの喜びと感謝の気持ちを持って、今後も精進せねばと強く思いました。

第6分科会
人権・平和私が変わればあなたも変わる
あなたが大事 私も大事命を支える育ちあい

被爆体験者、下平作江氏のお話と原爆により一三〇〇人の児童を失った長崎市立山里小学校の児童による合唱で始まりました。多くは残っていないが、つらやらない被爆体験の語り部から、すさまじい体験を聞き、生きる勇気をいただきました。

基調講演は、臨床心理士でもあるメンタルカウンセラーの倉成史氏から「いじめから守る子どものいのち」をテーマに実際にカウンセリングの経験を生かしたお話を聞きました。

▼最近の傾向は、心理的ないじめが増え、隠蔽されるものが多くなった。

▼いじめの相談を受けた親が「なぜ早く言わなかった」など、子どもを責めることで自分が悪いという気持ちになる。大切なのは、子どもの気持ちに寄り添うこと。

▼子どもが話さない理由に「親に心配をかけたくない」という心理がある。子どもは親に心配や迷惑をたくさんかけていいのだと伝える。

▼子どものいじめを知ったときの親の対応は。

一、子どもの気持ちを受け入れる

二、子どもを信じる

三、子どもの味方だということと態度だけでなく言葉で伝える

講演の終わりに愛称「ひまわり先生」の心理カウンセラー、米倉けいこ氏による朗読があった。

りました。

実践発表では、教育委員会とPTAが協働して取り組んでいる「いじめの未然防止」ファミリープログラムの紹介をファシリテーターで長崎市教育委員会生涯学習課の一瀬裕之氏から発表していただきました。研修プログラムの内容を実際のビデオを交えながら、説明されました。平成二五年は、長崎市にある一〇五PTAのうち九七PTAが、この研修に取り組まれたそうです。



パネルディスカッションでは、いい話は聞いて嫌な話を受け入れようとしないう大人や社会を問題視し、重要なのは、家庭が「ありのままの心」を受け止める場所であることだというお話を聞きました。

24時間、お子さまの「万が一」に安心でお応えします!!

PTAが窓口の団体制度だから保険料が
約60%割安!!

年度の途中でもご加入いただけます。
プランは4タイプ(年間保険料 6,000 ~ 12,000 円)
学校内外問わず、夏休み期間の外出先やレジャー中の事故も補償されます。



傷害補償



急増中の

自転車事故も補償



賠償責任補償



特定感染症補償



育英費用補償

資料のご請求・お問い合わせは、
滋賀県PTA連絡協議会「園児・児童・生徒 24 時間総合保障制度」係

☎ 0120-577-415 (平日9:30 ~ 17:00)

第5分科会
地域連携

災害を乗り越えて

〜地域と共につなぐPTA活動〜

第5分科会は、二十三年前雲仙普賢岳の噴火で被災し、その後見事に復興を遂げた島原復興アリーナで行われました。

長崎県立島原農業高校の生徒さんによる素晴らしい和太鼓演奏の後、平成三年九月十五日の大火砕流で消失した南島原市立大野木場小学校の新校舎完成（平成十二年二月二二日）までの実践発表や第二校歌「生きていたんだね」の合唱が行われました。

その後のパネルディスカッションでは、被災当時、行政・学校・生徒という立場で関わった方々が、当時の体育館での避難生活の苦労や、学校も家も火砕流で消失して意気消沈するなかで、子どもの学

習のために公民館などを使って教育の再開を行った背景をリアルに語られました。

被災三日後に授業が再開された当初は「こんな時に学校が？」と戸惑いも感じた子どもたちも、友達と授業で会うところによって家や行き場を失くした悲しみが軽減された話や、また、教育や仮設住宅の問題にいち早く対応出来たのは、地域・学校・保護者が、三位一体の取り組みで行政に要望していった事が、対応のスピードアップに繋がった話など、改めて地域連携の大切さを教えていただきました。

その後「今、学校と地域のためにわたしたちができること」というタイトルで、「N

PO法人 まちと学校のmiraい」代表理事 竹原和泉さんの基調講演が行われました。東日本大震災で津波の被害を受けた山田町立船越小学校が、一人の犠牲者も出さずことなく避難できたのは、

校務員さんが津波の大きさにいち早く気づき、校長先生に進言したからで、定期的に異動する教職員だけでは判断できない、地域に精通する人々の意見を聞いた正しい決断が明暗を分けたとのことでした。

竹原さんは自身の海外生活体験で、アメリカニューヨーク郊外で子育てをした際、地域の人々が「何年何組の学校の先生が誰である」とかを把握していることに驚き、理由をきくと地域の人々は固定資産税の一部に学校税が

あり、「学校を支えているのは自分たちだ」と誇りを持っている事を知って、地域を巻き込んだ情報共有の大切さを語られました。

第8分科会
健康安全

タフな子どもを育てよう！

〜心豊かでたくましい子どもを育てるために〜

基調講演では、神戸製鋼ラグビー部ゼネラルマネージャー平尾誠二氏の講演を聞きました。

平尾氏の講話で印象に残っているのは、「昔は、理不尽なことを言われたり受けたりにして、精神的にも肉体的にも強かった。今ここにかける団結力があり、試合では素晴らしいプレーで勝っていたように思う。今は、個々の実力は、素晴らしいものがあり、事前

準備は完璧なのだが、いざ試合になるとなぜか負けてしまう。コミュニケーション不足ではないかと思っている。また、子どもたちに指導をしようにも思っている。間に親が入ってきてしまい、なかなかうまく論議することが出来ない場面も増えてきて、指導者として大変困っている。親が子どもにかかわる時間が多いためか、子どもが精神的にも肉体的にも弱くなってしまうたよ

うに思う。」というお話を聞いて、親のかかわり方が、本来ならば「タフである子ども」をそうではなくしてしまっているのではないかと反省しました。最後に、スポーツの素晴らしさは何か？という問いに「出来なかったことが出来るようになる。感動することが出来る。やったら出来る！を実感することが出来る。」とお話しされ、スポーツが、タフな子どもを育てることに役立っていることを学ぶことが出来ました。

パネルディスカッションでは、「今、私たちがやらなければならぬこと」を論点に据えて、

- 【教育分野】他人とのかかわりからタフさが育つ。
- 【身体分野】大人の行動が子どもたちを変えることにつながる。
- 【心分野】安定し過ぎしやすい環境。関心を寄せる人。未来への見通しがわかりやすく示されている必要がある。
- 【社会分野】基盤は、安心安全な社会に守られている環境が必要である。

各分野の方々から、子どもたちとのかかわり方について有意義なお話を聞くことが出来ました。

地球の未来にできること。
マングローブ「海の森」づくりは、
その答えのひとつです。

東京海上日動は、1999年度からNGOをパートナーに、地球温暖化の抑制に役立つマングローブの植林をはじめました。それから10年、「海の森」は5,000haを超える面積にひろがりました。マングローブ「海の森」づくりは、東京海上日動が地球の未来にかけた保険。100年間植林を継続することを目指し、取り組んでまいります。
*「マングローブ植林行動計画」「財団法人オイスカ」(1999年度～)「国際マングローブ生態系協会」(2009年度～)

東京海上日動火災保険株式会社
東京都千代田区丸の内1-2-1 〒100-8050
☎ 0120-868-100 午前9時～午後8時(平日・土日祝とも) <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

育てたいのは
子どもたちの未来。

「高校生国際交流プログラム」協賛
「いじめ防止標語コンテスト」開催
「エコキャップ推進協会」への支援
「がん健診企業アクション」への参加
「新日本フィルハーモニックオーケストラ」協賛
ほか

AIU損害保険株式会社 神戸支店
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-3-3
問合せ: 078-360-2401 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

